

# 学生の視点によるアカデミック・アドバイジング評価

清水栄子<sup>1)</sup>、小林忠資<sup>2)</sup>、岸岡洋介<sup>3)</sup>、松本清<sup>4)</sup>、岸岡奈津子<sup>5)</sup>

1) 愛媛大学教育・学生支援機構、2) 岡山理科大学獣医学部、3) 京都外国語大学共通教育機構、4) 東京科学大学戦略本部、5) 立命館大学学生部 OIC 学生オフィス

## 1. はじめに

近年の高等教育では、多様な背景を持つ学生が増加しており、個々の学生のニーズに応じた柔軟な支援が求められている。アカデミック・アドバイジング（以下「アドバイジング」）は、学業やキャリアに関する目標設定から計画の策定、実践に至るまで、学生一人ひとりに適した支援を提供している。アドバイジングは正課教育と正課外活動を通じ、きめ細かなサポートを行うことで学生の学業成功を支える役割を果たしている。

中央教育審議会による答申（2008）以降、高等教育の質保証の観点から、学習成果を提示することが求められるようになっており、アドバイジングにおいても同様と考えられる。アドバイジング評価においては、そのプログラムの有効性や教育的な効果の検証が重要とされている（Robbins, 2016）。本報告では、米国におけるアドバイジング評価の仕組みを整理し、特に学生の視点がどのように評価に反映されているかに着目して紹介する。

## 2. アドバイジングの評価目的

Robbins (2016) によると、アドバイジングの評価には以下の3つの主な目的がある。第一は、アドバイジングの効果を確認することである。アドバイザーや管理職は、学生がアドバイジングを通してどのように学習しているかを把握し、以前の評価結果に基づく改善の効果を検証する。第二は、説明責任を果たすことである。アドバイジングを含む高等教育のほぼ全分野で、外部機関（例：理事会や認定機関）が説明責任を求めているため、評価が必要とされる。第三は、財政的制約の中でのプログラムの意義を証明することである。評価

データは、今後の計画や予算、プログラム決定において重要な指針となる。

## 3. アドバイジング評価の2つのアプローチ

アドバイジング評価には、プログラム・レベルと学生の学習成果という2つのアプローチがある。

高等教育規準推進協議会（CAS : Council of Advancement of Standards in Higher Education）は、アドバイジングのプログラム・レベルの評価のための基準とガイドラインを公表している。

CAS は、プログラム評価の12の構成要素として、「ミッション」「プログラムとサービス」「学生の学習、成長」「評価」「アクセス、公平性、多様性、インクルージョン」「リーダーシップ、マネジメント、管理」「人的資源」「協働とコミュニケーション」「倫理、法律、ポリシー」「財源」「テクノロジー」「施設と設備」を挙げている。これらの構成要素を活用したガイドが提供されており、各大学では自己評価を行うツールとして活用されている。Troxel (2011) は、プログラム評価の要素として、プロセス改善（効率と有効性）および結果の改善（インパクト）の2つを示している。

一方、アドバイジングの学習成果に関して、専門職団体であるアカデミック・アドバイジング協会（NACADA : National Academic Advising Association）は、「学生がアドバイジングに参加することで身につける知識や能力、評価や行動に関するもの」と学習成果を定義し、各教育機関に成果の設定と評価方法の独自開発を推奨している。

NACADA は、エクセレンス・アカデミック・アドバイジング（EAA）自己調査やプログラムレビューを通じて、アドバイジングの評価を実施し

ている。EAA 自己調査は、「コミットメント」「学習」「公平性、インクルージョン、多様性」「アドバイザーの能力」「連携」「学生の目的と進路」など、9項目に基づいて行われる。また、プログラムレビューでは、管理職やアドバイザーと協力して、関連データを収集・評価し、実践強化に向けた報告書を作成する。

#### 4. 各大学におけるアドバイジング評価の事例

誌面の都合上、ここでは3大学でのアドバイジング評価の取り組みを紹介する。

##### 4-1. カリフォルニア大学バークレー校 (UC, Berkeley)

カリフォルニア大学バークレー校では、専攻決定までのアドバイジングを担当する文理カレッジアドバイジング・オフィスのほかに、学生寮でのアドバイジングや専攻決定後の専門分野ごとのアドバイジングを担当する部署が併設されている(清水, 2015)。

同大学では、アドバイジングに関する評価体制を強化するため、「アドバイジング評議会 (Council)」を組織しており、その下部組織である「プログラム有効性ワーキンググループ」がアドバイジング評価を担当している。このワーキンググループは、評価のためのプログラムガイドを作成しており、学生のニーズを理解し、支援する能力の向上を目的の一つとしている。また CAS が定めた構成要素と学習成果のマトリックスが含まれ、学内関係者に評価モデルとして提供されている。

##### 4-2. ガバナーズ州立大学 (Governors State University)

ガバナーズ州立大学は、学士課程では集中型、大学院では分散型のアドバイジングモデルを取り入れている(清水, 2015)。同大学では、NACADA によるコンサルティングを利用したアドバイジング評価を実施している。NACADA から派遣された2名のコンサルタントが、2日間の訪問調査を行い、学生、学生アドバイザー、大学院生アドバイザー、アドバイザー、学部長等の学内関係者と面談を行っている。訪問調査前には、

エンrollment戦略計画やアドバイジング・プログラムに関する情報を入手している。これらの調査結果に基づき、アドバイジングの強みや課題、改善提案をまとめたレポートを提出している。

##### 4-3. コロラド州立大学ボルダー校 (CU, Boulder)

コロラド州立大学ボルダー校には、複数のアドバイジング・コミュニティが存在しており、それはカレッジおよび独立したプログラムで提供されている。

同大学では、学部や学内の教職員による委員会が設置されている。この委員会では、アドバイジングに関するベストプラクティスの検討や、大学内のアドバイジングの実践状況の調査を行っている。その調査結果は、アドバイジングに関する主要な提言や学生を含む学内関係者から寄せられたフィードバックとともに、報告書としてまとめている。

#### 5. おわりに

アドバイジング評価には、外部評価として CAS や NACADA による基準やコンサルタントを活用する方法と、大学独自の委員会を通じた内部評価の2つの方法が見られる。本発表では、これらの評価報告書において学生によるフィードバックを取り入れた報告と改善提案が示されている点についてさらに詳しく紹介する。

謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP24K06114 の助成を受けたものである

参考文献：

清水栄子 (2015) 『アカデミック・アドバイジング その専門性と実践』 東信堂

Robbins, R (2016) 'Assessment of Academic Advising: Overview and Student Learning Outcomes', In Grites, T. J. Miller, M. A., Volerin, J. G. Beyond Foundations: *Developing as a Master Academic Advisor*, Jossey-Bass

Troxel, W. G. (2011) 'Assessing the Effectiveness of the Advising Program' In Gordon, V. N., Habley, W. R., Grites, T. J. (Editor) *Academic Advising: A Comprehensive Handbook, 2nd Edition*